

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」掛川校		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 24日		2024年 12月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年 12月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育のため、一人一人に寄り添った支援を行っていること。 保護者同席も可能であるため、そのお子さんにあったアプローチの仕方などをその場で助言、ご家庭で役に立ててもらえること。	お子さんの発達段階や特性に合わせたオーダーメイドのプログラムを作成し、支援を行っている。	同年齢で組み合わせた小集団での活動を月1回行うことで、集団での様子を確認。また、友達と関わる楽しさやルールを守って遊ぶ楽しさを実感できる活動を行っている。
2	土曜日・祝日、19時までの営業のため、ワーキングママにとって利用しやすいこと。 振替がとりやすく、週1回は療育を受け、定着が図れること。	お子さんの特性や発達段階、求める力に合わせ、担当職員を随時検討して、よりそのお子さんに合わせた療育ができるよう努めている。	来年度よりWPPSI3知能検査や新版K式発達検査などを取り入れ、療育に活かせるよう準備をしている。
3	全国200校舎、静岡県内23校舎あるため、いろいろな資格や経験を持った職員からの様々な視点から支援が行われていること。	事業所のスペースが広く、理学療法士がいるため、体を動かす活動を取り入れている。	園訪問を積極的に行っている。園からの様子を元に支援内容を検討、また、園への療育的観点からの助言を行っている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団での様子や表れを把握することが難しいこと。	個別療育であることが当事業所の特徴であることから、友達との関わりについての課題を行うことが難しいため。	引き続き、小集団活動や同時間の利用児同士の活動を取り入れたり、園に訪問し、お子さんの様子を見学したりしていきたい。
2	偏食やトイレトレーニング等、日常生活における困り感に対する支援が難しいこと。	1時間という療育であるということに加え、掛川市から支給量が7日と週1日の利用であるため、対応が難しい。また、今年度保護者様への声掛けが足りず、家族支援が周知されなかった。	保護者様への家族支援について周知を徹底し、偏食やトイレトレーニングについては、相談という形で、保護者様の話を聞き、改善案を提示したい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」掛川校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 30

回収数 25

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	2	0	0		170m ² 以上のワンフロアです。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	24	0	0	1		常勤、非常勤8名で対応しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	6	1	1		事業所が2階にあり、利用者の皆様にはご不便をおかけし、申し訳ございません。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	4	0	0		清潔を保てるよう、日々の清掃には力を入れていきたいと思っています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	2	0	1		日々精進したいと思います。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	3	0	1		1対1のマンツーマンの療育の為、そのお子様の主訴にあったプログラムを提供しています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	20	2	0	3		今年度、お子様のことを客観的に分析をするためにWPPSI 3知能検査などを取り入れました。また、来年度は新版K式発達検査を取り入れていきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2	0	3		以前より、5領域を意識した計画作成に努めています。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	2	0	1		毎回、計画を確認しながら、お一人お一人の支援プログラムを作成しています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	3	0	1		日々、教材研究などを行い、固定されないよう努めています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	2	5	6	今のところそのような機会がない。	並行通園のお子様をご利用されています。毎日、園で他のお子様と触れ合う機会があるため、当事業所ではそのような機会を設けていません。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	2	0	0		契約時に、説明しています。また、支援プログラムについては、契約前にお子様には支援を体験してもらい、面談をしています。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	2	0	1		専門支援計画と合わせて説明しています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	8	2	3	今のところそのような機会がない。	年長児には、就学に向けての勉強会を行いました。2月の小集団活動に合わせて、勉強会を行う予定です。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	20	3	1	1		支援後に保護者様と話す時間を設け、共有しています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	5	2	2		定期的ではありませんが、支援中や支援後にフィードバックを行い、助言等を行っています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	1	0	1		お子様や保護者様に対し、共感的に受け止めるよう努めています。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	4	6	5	今のところそのような機会がない。	年度初めには、支援時間を長くして、プログラム後半はお子様を遊ばせながら自由に保護者様同士がお話できる時間を設けました。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19	1	2	3		「お悩み相談室」のお便り等の配布を行い、保護者様に周知したいと思います。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1	1	3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	6	2	4		インスタやブログでの活動の掲載を活発にし、周知するよう努めたいと思います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	1	0	2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	3	0	3	今のところ、実施されたときに利用していない為、参加していない。	契約時に説明しています。また、様々な災害などを設定した訓練を行い、様子を校舎内に掲示しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	3	0	5	今のところ、実施されたときに利用していない為、参加していない。	毎月、様々な災害を想定し訓練をしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	3	0	3	今のところ、実施されたときに利用していない為、参加していない。	契約時に説明させていただいていますが、安全計画等が閲覧できるよう工夫をしています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	4	0	2	今のところ、実施されたときに利用していない為、参加していない。	事故等が起こらないよう努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	0	0	0		ありがとうございます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	1	0	0		ありがとうございます。お子様の笑顔に元気をもらっています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	3	2	0		みなさんにご満足いただけるよう日々精進していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」掛川校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		小さな部屋、大きな部屋、和室などと、お子さんに合わせて部屋の環境を整えて行っている。	1回に最大4人までが望ましい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1		サポートが必要なお子さんがいる時間帯に職員数が足りない時がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		支援室には極力物を置かず、視覚刺激を減らしたり、音や温度などを調整できる個室を使用したりお子さんの特性などに配慮した環境を用意している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	午前中にイベントや支援がない限り、毎朝の清掃を欠かさず行い、定期的に事務所内の整理整頓を行っている。	空調清掃を依頼した方が良いと思う。匂いが気になる時期がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		特性に応じて、小部屋、和室などを使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	申し送りや、その時その時で感じたことを話し合ったり、悩みなどを相談したりする場面がある。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6	法人内で内部監査を行い、できていなかった部分を職員に共有して改善している。	第三者による外部評価については、法人内で検討中。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	1	法人内の研修が年間で計画され、受講する機会が確保されている。研修は、参加するように心がけている。 個人的に自己負担で有料研修を受け、自己研鑽を図っている。	外部の有料研修を受ける予算が確保されておらず機会が不足している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		個別支援計画や記録を見て、お子さんにあったプログラムの作成を心がけている。毎回一人一人、オーダーメイドのプログラムを作成し、支援後に保護者に課題やねらい・目的などを説明している。	3月中にHPで公表予定である。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		職員内で回覧をし、内容を確認。いつでも支援計画が見られるように、支援記録用の個人ファイルにも保管している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	NCプログラムなどを使用している。そのほか、筑波大学付属大塚特別支援学校の安部博志先生が作成した、『およその発達段階』を見ながらアセスメントを行っている。 WPPSI3の検査を行い、支援に活かしている。	来年度より、新版K式発達検査を行えるように研修を行っている。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		日々の支援での様子だけでなく、園に訪問したり、保護者から話を聞いたりしながら情報を収集し、ガイドラインや保育所保育指針などを確認し、作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		新版K式発達検査やWIPPSI知能検査の結果、支援計画、職員間の話し合いなどを通して、立案を心掛けている。 様々な資格や経験を積んだ職員が関わり、様々な活動を取り入れたプログラムを提案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		新版K式発達検査やWIPPSI知能検査の結果を参考に、様々な課題や活動に取り組みるように心がけている。日々、指導員同士で教材研究を行っている。様子を見ながら指導員を変えたり、お子さんに希望を聞いたりしながらプログラムを作成している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		祝日、土曜日に小集団活動を提供し、お子さんの状況に応じて参加を促している。 個別支援や小集団の様子を記録し、そこから考えられる課題を見つけて、そのお子さんに合わせて支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		同じ時間帯のメンバーの相性などを配慮して部屋割りを行っている。小集団活動では、必ず事前に打ち合わせしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	その日ではないが、翌日、支援の振り返りや気付いたことを話し合う時間は作っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援をした3日以内には記録を記入し、支援の検証・改善を心掛けている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		半年に一回モニタリングを行い、それに伴って支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		セルフプランの為、担当と児発管が直接園を訪問し、情報共有をして互いの役割分担と協力関係について話し合っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		訪問や見学に伺い、利用児の情報交換をする とともに、今後支援が必要と思われるお子さんについて情報を共有している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		園を訪問し、情報共有と相互理解を図っている。 情報共有をして互いの役割分担と協力関係について話し合っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1	児発センターが主催する学習会や交流会に参加している。		
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	園訪問や市で行っている子育て支援センターの見学等を行っている。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		支援中や支援後に、ご家庭や園での様子、支援中の様子について情報交換を行っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	先輩ママと話す会を設けている。	児発管がペアレントトレーニングの研修に行き、トレーニングできるように準備をしている。今後情報提供を行っていききたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		児発管が行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		児発管が行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		定期的ではないが、相談があると、すぐに対応できるよう調整を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	先輩ママと話す会を設けている。	小集団活動で、児童だけでなく保護者同士が関わられるようにおたのしみの自由な時間を提供するが、関わりが少ない。今年度は保護者だけの保護者会の開催は2月に行う予定である。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者の話を傾聴・共感し、指導員だけで相談に乗り切れないときはすぐに、児発管に伝え、迅速に対応できるように心がけている。	今年度はお便り等の配布をしなかったため、事業所内相談の事前申し入れは少なかった。お便り配布は行っていききたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	3	LINEでイベントの予定などの案内などを発信し、インスタグラムで、イベントの様子や季節の掲示物を発信している。	ブログでの発信を積極的に行っていききたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報があるものは、鍵付きの金庫に保管しており、記録用のファイルが入っている金庫は、よく使うが必ず扉を閉めることを心掛けている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	マニュアル作成後は指導員内で共有し、それに伴って訓練を行っている。訓練の様子は事業所内入口の見やすいところに掲示している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	毎月防災訓練を行っている。毎月防災訓練を行っており、また、定期定期に防災リュックの中身の確認、避難経路の確認等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時に伺い、服薬等に変更があればその都度報告するよう保護者様に呼びかけている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		基本的には食物を提供していないが、お菓子などを提供したり、小麦粉粘土を行ったりする際は、その都度保護者に確認を取っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		年度初めに安全計画を作成し、それに基づいて研修や訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		避難場所や毎月の防災訓練の様子を掲示している。	保護者様が安全計画を見ることができるよう掲示する。
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットが起きたときはすぐに職員間で共有し、再発防止に向け話し合っている。また、記録をファイルに保管し、新入職員は初日に記録を確認している。		

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		毎月チェックリスト確認、指針などの資料回覧、研修受講を行っている。虐待防止委員会に参加している指導員が筆頭に、研修の参加し、研修内容を回覧し内容を共有している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		支援計画に記載をしている。また、切迫性、非代替性、一時性の3要件を満たした時のみ行うことを、契約時に児発管の方から説明し、了承を得ている。	